

平成22年度 林地残材フル活用実証事業の採択課題

番号	実証実施事業者	事業名	事業内容
1	滝上林業協同組合 (北海道)	渚滑川流域林地残材フル活用実証事業	地域一体となって木質バイオマス資源の活用による地域活性化及び雇用促進に取り組む。資源収集コストを低減するため、路網の充実、中型林業機械の活用、梢短部の採材寸法の定尺化、バケット集材方式の改良を行う。
2	有限会社 二和木材 (岩手県)	高性能林業機械導入による低コスト間伐と未利用低質材の収穫・利用に関する実証事業	スギ林を対象にして、間伐及び搬出コストの低減と、資源としての適正加工利用システムの確立を図る。初期間伐対象林からは燃料及び畜産用途への供給可能性を実証する。また、利用間伐林からは用材と未利用低質材の同時搬出を行い、これらの事業の採算性確保を目指す。目的別に7種類のシステムの実証を行う。
3	県産材加工協同組合 (群馬県)	林地残材にさせない群馬モデル創出に向けた利活用実証事業	間伐地からABC材すべてを同時に搬出し、製材用、製紙用チップ、燃料用等に総合利用するシステムを構築する。効率的な搬出システムとしてグラップル付きバケット車の利用等を採用し、労働生産性10m ³ /人・日を目指す。
4	日本製紙木材株式会社 (東京都)	集約化施業等による生産性改善及び林地残材回収システムの構築による未利用木質バイオマス利用の推進	徳島県における林地残材の収集・利用をさらに改善した効率的なシステムを構築する。集約化施業の推進、切り捨て間伐をしない作業システム構築、作業道開設時の支障木集荷を行う。MDF原料だけでなく、燃料としての利用も焦点に入れた新たな供給・利用の仕組みを作る。
5	王子木材緑化株式会社 (東京都)	低質間伐材のマテリアル及びサーマル利活用条件の実証と間伐材総合利用実証事業	製紙用チップだけでなく、燃料用としての利用に焦点を当て、間伐未利用材の利用可能性を明らかにする。グループ社有林8カ所において、それぞれ異なる作業システムの下で生産コスト分析及び利用時の経済性評価を行い、供給可能性を実証する。また、路網密度の低い林地や急傾斜地向けに、新たに汎用性の高い架線系生産システムの導入を検証する。
6	有限会社 古屋製材所 (山梨県)	林地残材フル活用のための効率的な収集と輸送方法の確立	林地残材を発生させないための効率的な収集及び運搬システムを確立する。このため、高密度路網整備地及び皆伐地において施業方法の検討、輸送の効率化、施業計画の策定方法の検討等を行う。また、市民ボランティアを活用した新たな収集システムの構築を図る。
7	E2リバイブ株式会社 (三重県)	林地残材の収集から木質燃料の製造までの低コスト・トータルシステムの検証	土木建築業のノウハウを生かし、林地残材の収集、破砕、搬出の低コスト化を図る。大台町の3カ所で森林所有者との協議により団地化を進め、作業路開設から利用までを一貫して実施する。林道の開設が難しい所では、パイプコースターによる集材を行う。
8	岡山大建工業株式会社 (岡山県)	間伐材チップ利用によるインシュレーションボード生産事業	社有林、個人所有の小規模林地の団地化により、効率的な間伐施業を実施する。チップ製造の低コスト化については、小型の自走式チップパーの導入のほか、林地に隣接するチップ工場も活用することとし、その間の材の運送効率の改善を図る。また、用材搬出と同時搬出によるチップ材の収益改善について、長めの造材による効果を実証する。
9	有限会社 山下商事 (宮崎県)	森林資源としての林地残材を活用した畜産資材を介したエネルギー活用による地域低炭素社会の構築	畜産農家と連携し、未活用森林資源を畜産資材(おが粉)として活用した後、畜産廃棄物(おが粉+糞尿)をバイオマス燃料として活用することにより、経済的に成り立つビジネスモデルを構築する。また、灰は農業用肥料として利用する。